



学校ホームページQRコード



練馬小学校 学校だより

令和8年3月5日

3月号 ②

練馬区立練馬小学校

校長 鈴木 英明

令和7年度 学校評価報告

1 学校評価の目的

本校では、教育活動をより充実させるため、毎年度、学校評価を実施しております。学校評価は、日々の教育活動を振り返り、その成果と課題を明らかにするとともに、改善の方向性を明確にするための取組です。

また、保護者・地域の皆様と学校の現状や方針を共有し、相互理解のもとでよりよい学校づくりを進めることも大きな目的としています。

学校は常に社会の変化や子供たちの実態に応じて改善を続けていく必要があります。本校では、学校評価を「次につなげるための材料」として位置付け、学校評価活動を進めてまいります。

2 学校評価の方法

本年度は、児童及び、保護者の皆様を対象とした教育活動アンケートを実施し、その集計結果をもとに学校関係者評価を行いました。

アンケートでは、学習指導、生活指導、学校運営、家庭・地域との連携など、教育活動全般についてご意見をいただきました。保護者の皆様には、数値による評価だけでなく、自由記述によるご意見も頂戴しました。

3 本校が大切にしている教育目標

本校では、以下の教育目標の実現を目指して教育活動を行っています。

心身ともにたくましい児童に育てる

○ よく考え行う子ども

○ 明るく元気な子ども

◎ 思いやりがありやさしい子ども(重点目標)

○ なかよく協力しあう子ども

学力の定着だけでなく、心の育ちや健康の保持増進、社会性の育成を含めた「調和のとれた成長」を目指しています。日々の授業や行事、体験活動は、すべてこの教育目標の実現につながるよう計画・実施しております。

3 学校評価結果

保護者の皆様には、昨年、教育活動アンケートにご協力いただいたこと、感謝いたします。(データ回収率は71%でした)。誠にありがとうございました。アンケート結果等に基づき、学校関係者評価を実施し、次年度に向けた方針等を作成いたしましたので、ここにお知らせします。今後とも練馬小学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。

【学力の定着と向上】

本年度のアンケートでは、「授業が分かりやすい」「学校は学習に丁寧に取り組んでいる」との肯定的回答がいずれも高い割合を示し、本校の授業改善や学習規律の定着について一定の評価をいただきました。学校関係者からも、落ち着いた学習環境が保たれているとの意見があり、基礎的・基本的な内容の定着に向けた取組は概ね成果を上げていると考えています。

一方で、学力の定着状況には個人差が見られることや、家庭学習時間のばらつきに関する課題が明らかになりました。自

由記述では、「家庭学習の内容が分かりにくい」「復習の方法を具体的に示してほしい」「ICT の活用が増える中で情報の正しい判断力が心配である」といったご意見も寄せられました。

次年度は、習熟度に応じた指導等の個別最適な学習の充実を図るとともに、対話や発表、協働的な学習活動を計画的に位置付け、自ら考え表現する力の育成をさらに進めます。また、ICT 活用については、単なる機器操作にとどまらず、情報の取捨選択や活用の在り方を学ぶ指導を強化します。家庭学習については、学習の見通しや具体的な取組例を示し、家庭との連携を一層深めてまいります。

中期	短期経営目標	具体的方策	アンケート内容	評価	成果	課題	改善点		
学力の定着・向上に向けて	学習指導の充実による授業規律、学習習慣、基礎的・基本的な内容の定着	①学習規律の徹底	(児童)①最後まで集中して話を聞く。	89.9%	落ち着いた学習環境が保たれているとの評価が高い。	・学年や場面による差。	学習規律の共通理解を徹底し、全校で統一した指導を行う。		
			(保護者)授業に対する集中力や話を聞く態度の定着。	86.5%				・集中力の持続に課題。	
		②学習習慣の定着	(児童)毎日めやすの学習時間、勉強している。	75.4%		家庭学習が概ね定着している。		・学習時間の個人差。	学習内容の見える化と家庭連携の強化。
			(保護者)宿題等の支援により、家庭学習のめやすの時間が守られている。	71.0%					
		③個別最適な学びの提供	(児童)勉強して分かったり、できるようになったりしている。	93.6%		児童の実態に応じた指導の必要性が共有されている。		・支援体制のさらなる充実。	習熟度別指導等の個別最適な学習の充実。
			(保護者)教員の工夫した授業展開や指導。	79.2%					
	思考力・判断力・表現力、自ら学ぶ意欲や主体的な学び方、情報活用能力の育成	④「聞いて・助けて・任せて・見守る」学習支援	(児童)話し合う活動で自分の考えを深める、新たな考え方に気付く。	88.0%	協働的な学習が進んでいる。	・主体性に差。	学習支援の共通理解を深め、対話的活動を充実。		
			(保護者)自ら考えて判断し、課題を解決する教育活動。	78.7%				・支援の在り方の共有。	
		⑤ICTの積極的活用による情報活用能力育成	(児童)タブレットの毎日活用。	57.0%	ICT活用は定着しつつある。	・活用能力の個人差。 ・情報の真偽判断力不足。 ・依存傾向への懸念。	系統的な情報活用能力・情報モラル指導の強化。		
			(児童)読書が好き。	81.6%				・読書量の差。	
		⑥読書による言語活動の充実	(保護者)読書の習慣づくり。	86.5%	読書活動は継続的に実施。	・語彙力・表現力の伸び悩み。	朝読書や図書活用の工夫、言語活動の充実。		

■ 次年度重点取組

- ・ 基礎的・基本的事項の確実な定着を図るための補充学習体制の整備
- ・ 家庭学習の内容と方法を明確に示し、家庭との連携強化
- ・ 対話的・協働的な学習場面の計画的設定による思考力・表現力の育成
- ・ 情報活用能力を系統的に育てる ICT 活用の充実

【豊かな心の育成】

「学校は安心できる」「いじめ防止の取組がなされている」との肯定的回答は高い水準にあり、児童が学校を居場所として感じている様子がうかがえます。不登校児童が減少傾向にあることも、安心感の醸成と教育相談体制の充実の成果の一つと捉えています。また、文化体験や行事、異学年交流など多様な活動が、児童の活力や笑顔につながっているとの評価もいただきました。

一方で、自由記述では「挨拶や礼儀面にばらつきがある」「学校外での行動が気になる」「SNS 等による人間関係トラブルが心配である」との声もありました。社会環境の変化に伴い、人間関係の悩みが複雑化している状況も見られます。

次年度は、いじめ防止の取組を継続するとともに、児童理解に基づく丁寧な指導をさらに充実させます。また、「あいさつ・あつまり・あとかたづけ」の三つの「あ」を学校生活全体で徹底し、規範意識と公共性の育成を図ります。加えて、情報モラル教育や性に関する指導を発達段階に応じて適切に進め、安心して成長できる環境づくりを継続してまいります。

中期	短期経営目標	具体的方策	アンケート内容	評価	成果	課題	改善点
豊かな心の育成に向けて	人権教育、道徳教育の推進	⑦様々な教育活動を関連付けて、人権感覚を養う。	(児童)友達の良いところを見つけ、協力する。	90.9%	多様な活動を通じ人権意識を育成している。	・他者理解の深化。 ・SNS上の配慮不足。	教育活動全体を関連付けた人権教育の推進。
			(保護者)思いやり、尊重しあう豊かな人間関係を育む教育活動。	84.8%			
	いじめ防止	⑧いじめ防止	(児童)学校に行くのが楽しい。	86.5%	いじめ防止の取組は高評価。	・継続的な見守り必要。 ・人間関係の複雑化。	早期発見・早期対応の徹底。
			(保護者)落ち着いた楽しい学校である。	89.8%			
	生活指導・教育相談活動・特別支援教育の充実	⑨規範意識、集団適応力の向上	(児童)3つの「あ」(あいさつ、あつまり、あとかたづけ)が身に付いている。	84.3%	三つの「あ」は概ね定着。	・校外での行動への地域意見。 ・公共性の育成。	学校生活全体で継続指導。
			(保護者)集団生活を守るうえでの規範意識を高める指導。	87.5%			
	⑩教育相談体制の充実	(児童)先生や大人にいつでも相談できる。	64.4%	相談体制は整備されている。	・周知不足の面。 ・悩みの複雑化。	相談機会の確保と体制の明確化。	
		(保護者)教育相談等の機会は十分ある。	83.7%				
	キャリア教育の充実	⑪自己肯定感の高揚	(児童)自分に良いところがある。	80.3%	行事や交流活動が自信につながっている。	・自己表現への不安。 ・挑戦意欲の差。	表現活動・成功体験の機会拡充。
			(保護者)委員会や係活動、学校行事などで子供たちの成長を促す。	92.9%			

■ 次年度重点取組

- ・ 教育相談体制の一層の充実といじめ等の早期発見・早期対応の徹底
- ・ 「あいさつ・あつまり・あとかたづけ」の定着強化
- ・ 異学年交流や体験活動を通した自己肯定感の育成
- ・ 情報モラル・性に関する指導の計画的実施

【健康の保持増進・体力の向上】

「運動に親しんでいる」「体育的活動が充実している」との評価が多く、日常的に体を動かす取組は一定の成果を上げています。遊びや集会活動を通した体力づくりの取組についても、肯定的な意見が寄せられました。

一方で、体力差の拡大や生活リズムの乱れに関する課題も見られます。保護者からは「放課後の過ごし方が気になる」「ゲームや SNS 利用時間が長い」といった声もありました。また、ICT 社会における適切な行動力や危険回避力の育成への期待も寄せられています。

次年度は、体育科授業の工夫や運動機会の確保を通して、運動に親しむ児童の裾野を広げるとともに、体力向上への意欲を高めます。また、家庭と連携した生活習慣の定着指導を継続し、安全教育・交通安全指導・情報モラル教育を計画的に実施します。児童が自ら判断し行動できる力の育成を重視してまいります。

中期	短期経営目標	具体的方策	アンケート内容	評価	成果	課題	改善点
健康の保持・増進・体力の向上に	体力向上	⑫体育科指導の工夫	(児童)運動が好きで、すすんで運動している。	81.3%	運動に親しむ児童が多い。	・体力差の拡大。	体育授業の工夫と運動機会の確保。
			(保護者)日常的に運動に親しみ、すすんで体力の向上をめざす態度や能力の育成。	84.1%		・運動習慣の個人差。	
	健康教育・食育の推進	⑬基本的な生活習慣	(児童)「早寝、早起き、朝ごはん」を意識して生活できている。	75.2%	概ね良好な生活習慣。	・生活リズムの乱れ。	家庭と連携した生活習慣指導。
			(保護者)発達段階に応じた健康教育、食育	77.8%		・放課後の過ごし方。	
	安全指導の充実	⑭危険を回避しようとする力の育成	(児童)危険から身を守るための力が付いた。	91.4%	安全指導への安心感が高い。	・予測・判断力の強化が必要。	実践的な安全教育の充実。
			(保護者)危険なことから身を守る力の育成。	77.4%		・交通安全意識の継続。	
		⑮情報シテズンシップ	(児童)ルール・モラルを守って、正しく利用している。	92.9%	ICT利用意識は向上。	・SNSトラブルを懸念。	発達段階に応じた指導強化。
			(保護者)計画的な情報モラル教育の取組。	77.1%		・匿名性による誹謗中傷。	

■ 次年度重点取組

- ・ 体育授業の質的向上と日常的な運動機会の確保
- ・ 家庭と連携した生活習慣改善の取組推進
- ・ 安全教育・交通安全指導の継続的実施
- ・ ICT 社会に対応した危険回避力の育成

【学校・家庭・地域の協力・連携】

学校だよりやホームページ等による情報発信、行事や体験活動を通した地域との関わりについて、概ね肯定的な評価をいただきました。学校関係者評価では、地域人材の活用や PTA 活動への期待も寄せられており、学校が地域とともに子供を育てる場であることへの信頼がうかがえます。

一方で、「学校の取組の意図が十分に伝わっていないのではないか」「家庭と地域との関係が以前より見えにくくなっている」とのご意見もありました。社会環境の変化により、学校と家庭と地域との関わり方も再構築が求められていることが明らかになりました。

次年度は、教育活動の目的や成果をより具体的に伝える広報の工夫を行うとともに、地域の人的・物的資源を生かした体験活動の質的向上を図ります。また、保護者・地域との対話の機会を大切にし、双方向の理解に基づく協働関係の構築を目指してまいります。

中期	短期経営目標	具体的方策	アンケート内容	評価	成果	課題	改善点
学力校と連携した地域への協	地域貢献意識の向上	⑯学校・地域の人々・自然と関わる体験活動の充実	(児童)地域や社会をよくするために何かしてみたい。	85.3%	地域人材活用への期待が高い。	・地域との関わりが希薄化。	体験活動の計画的充実。
			(保護者)自然や地域とのかかわりを大切にした教育活動。	90.1%		・参加機会拡充への要望。	
	学校教育への理解	⑰学校からの積極的な教育活動の発信	(保護者)教育活動の十分な公開。	91.6%	学校だより等は概ね評価。	・努力が十分伝わっていないとの声。	発信方法の改善と充実。
			⑱小中一貫教育への理解	(保護者)中学校や幼稚園・保育園と交流していることへの認識。		71.3%	
						・情報量・タイミングへの課題。	
						・具体的な成果の見えにくさ。	

■ 次年度重点取組

- ・ 教育活動の意図と成果を伝える広報内容の充実
- ・ 地域人材活用の計画的推進と体験活動の質的向上
- ・ 保護者との対話機会の確保と相互理解の深化
- ・ 持続可能な協働体制の構築

【学校運営・働き方改革】

本年度の学校関係者評価では、「学校経営は一貫して適切に進められている」「教職員が協力しながら教育活動に取り組んでいる」との肯定的な評価をいただきました。教育活動全体に対する信頼も概ね高く、日々の教育実践や組織的な取組について一定の理解を得られているものと受け止めています。

一方で、社会情勢の変化や価値観の多様化に伴い、学校に求められる役割は年々増加しています。自由記述や学校関係者からは、「教職員の多忙化が心配である」「苦情や対応業務の増加が教育活動に影響しないか懸念される」といったご意見も見られました。また、教育活動の質を維持・向上させるためには、持続可能な学校運営体制の構築が不可欠であることが改めて明らかになりました。

次年度は、教育活動の目的や効果を踏まえながら、限られた時間や人的資源の中で何を優先すべきかを意識し、日々の取組を進めてまいります。社会的要請や新たな課題への対応は不可欠ですが、その都度、従来の活動とのバランスを考えながら実施方法を工夫し、教育の質を維持できるよう努めます。

学校関係者評価	具体的方策	成果	課題	改善点
学校運営全般	⑱ 学校経営の安定	経営の一貫性は評価されている。	・社会環境変化への対応。	組織的協働体制の強化。
			・苦情増加への対応。	
	⑳ 教職員の協働・働き方改革	教職員の努力は高評価。	・多忙化への配慮が必要。	業務改善と負担軽減の推進。
			・業務負担の増加。	
	㉑ 持続可能な学校づくり	教育活動への信頼が高い。	・継続的改善体制の強化。	PDCAサイクルの確実な実行。
			・人的資源の確保。	

■ 次年度重点取組

- ・ 校務の精選と業務改善の継続的推進
- ・ 組織的対応の徹底による教職員負担の平準化
- ・ 教育活動の優先順位を意識した取組の整理
- ・ 教職員が児童と向き合う時間の確保

【次年度に向けて】

本年度の学校評価を通して、子供たちが落ち着いて学校生活を送り、日々の学習に前向きに取り組んでいること、そして教職員が協働しながら教育活動を進めていることについて、多くの肯定的なご意見をいただきました。学校の営みは一朝一夕に形づくられるものではありません。日々の積み重ねを温かく見守っていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

一方で、学力のさらなる定着や、一人一人の状況に応じた支援の充実、人間関係や不安の早期把握、そして教職員の負担軽減など、次年度に向けて意識すべき課題も明らかになりました。

次年度は、本年度の成果を土台としながら、取組の精選と重点化を進めます。基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成を重視し、子供たちが主体的に学び、「分かる」「できる」という実感を重ねられる授業づくりを一層推進してまいります。情報活用能力の育成についても、目的を明確にしながらか計画的に進めます。さらに、児童理解を深める教育相談体制の充実や、日常の丁寧な見取りを通して、安心して過ごせる学校づくりを継続します。

ICTの活用や情報シズンシップ教育については、目的を明確にし、学習の質を高める手段として効果的に位置付けます。便利さや新しさを追うのではなく、子供たちの思考力・判断力・表現力を育てることを軸に据えてまいります。

学校・家庭・地域は、それぞれの立場で子供の成長を支える大切な存在です。学校としての責任を果たしつつ、相互理解のもとで持続可能な協働の形を築いていきたいと考えております。

子供たち一人一人が自分らしく力を伸ばし、「明日も学校へ行きたい」と思える学校であり続けられるよう、教職員一同、改善を重ねてまいります。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。